

2025 年度イラク・小児がん支援事業支援報告



■実施地域：イラク共和国クルド自治区

■支援対象者：小児がん患者、患者家族、貧困患者家族

概要

2025 年度は概ね予定通りの活動ができたが、2026 年 2 月 28 日にアメリカ、イスラエルによるイラン攻撃開始を受け、イラクの各事業地の治安も悪化している。3 月上旬にクルド自治区アルビルより現地スタッフ 2 名の日本来日を予定していたが、中東の混乱のため、直前に延期を決定した。その直後、駐在員の日本への退避帰国を実行した。アルビルをはじめとするクルドの各地でも昼夜、イラン政府、親イラン勢力による攻撃が継続的に行われ、これまでの米軍基地、米政府施設のみならず、一般の居住地にも大きな影響が出ている。また、米軍・イスラエル軍によりイラク国内の親イラン勢力への攻撃も行われている。そのため、現地スタッフは適宜在宅勤務をして対応している。なお、2026 年 3 月は院内学級の停止を余儀なくされた。

1. 病院への医薬品支援及び医療支援

ナナカリ病院およびヒワ病院に対し、総額 3,393,965 円の医薬品を提供した。全体財政状況を考慮し 2026 年 4 月以降、ジン病院に対し支援を行うこととした。

ナナカリ病院：

医薬品の調達：医薬品の不足を補うため、がん治療に伴う副作用や症状緩和のためのサポート的な薬品である抗生物質、ビタミン剤などの医薬品をスタッフで医師のヒワが病院側と調整してナナカリ病院に直接供給した。また、2 ヶ月ごとに患者の子どもの栄養状況改善のため、栄養強化ミルク（フォローアップミルク）の支援を行った。ミルク支援に関しては、がん治療を受けている乳児の栄養改善になったと担当医から報告がきている。

ヒワ病院：

がん治療中の好中球減少症患者対応への各種抗がん剤を始めとする医薬品、麻酔薬を 2 回に分けて供給した。

2. 貧困患者支援

低所得世帯に対して、病院に在庫していない医薬品を外部の薬局で入手するための購入支援及び病院に通院するための交通費支援に加え、高額な検査費用の一部を支援した。過去 2 年間、国内避難民キャンプの閉鎖が相次ぎ、元々経済的な貧困状態にあった患者家族の生活はより困窮し、医薬品購入や病院までの交通費の支援を必要とする患者家族も多かった。なお、JIM-NET スタッフが医師や他の NGO から情報収集したり、家庭訪問（受益者全体の 20～25%）を通じて家族の経済状況を把握して、選定している。

対象：地元住民

- ① 医薬品、交通費に関する支援 315 名に対しておよそ 30,000US\$の支援
- ② 検査・経済支援に関する支援 25 名に対しておよそ 3,000US\$の支援

対象：難民・国内避難民

- ① 医薬品、交通費に関する支援 230 名に対して合計 24,000US\$の支援
- ② 検査・経済支援に関する支援 54 名に対して合計 10,000US\$の支援

3. 院内学級支援

2025 年 6 月から 9 月にかけて、ナナカリ病院内で、治療が終わり復学した子どもたちと、がん治療を受けている子どもたち 22 名を対象にサマー教育プログラムを実施した。この 3 ヶ月間のコースでは、学業（英語、数学、理科）の授業に加え、美術、音楽、工作の活動を組み合わせることで、子どもたちが学習を継続できるよう支援するとともに、情緒的・心理的なサポートも提供できた。参加者の保護者へのアンケートでは、「子どもたちが、プログラム終了後に不安や悲しみが軽減されたと感じ、感情のコントロールが上手になり、前向きな感情が増えた。また、行動面でも落ち着きを見せた。」との報告があった。

ウィンター教育プログラムは、病気や継続的な治療のため学校に通えない 11 人の子どもたちを支援するために開催した。コースは 2025 年 10 月に始まり、2026 年 3 月末に終了する予定であった。しかし、2 月 28 日のイランへの攻撃開始後、アルビルにもイランからの報復攻撃があり、その影響により活動を休止することとなった。このプログラムでは、数学、理科、クルド語、英語の授業に加え、美術や手作りの活動が行われた。授業は定期的に開催され、子どもたちが快適に受講できるよう送迎のサポートも行われた。